

令和３年度 全国学力・学習状況調査及び県調査の武雄市結果の公表にあたって

武雄市教育委員会

武雄市は平成２４年度から学校ごとに公表した学習状況調査の結果をまとめて、市のホームページで公表してきました。今年度も保護者・地域住民の皆様に学校の現状と取組、武雄市の取組が分かっていただけるように公表を行います。

学校教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部であり、また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であります。この結果を受け指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組みます。保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、武雄市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思えます。

児童、生徒の学力の向上には、学校と家庭や地域との連携が必要です。今回学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は小学校６年生、中学校３年生は全国学習状況調査の結果です。（昨年、一昨年の結果は佐賀県小・中学校学習状況調査の結果を含む）

全国学力・学習状況調査は、知識・技能等と活用する力等を一体的に問う問題の調査となっています。

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

	国語			数学		
	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時
R元入学 現3年	67.9			66.2		
	(1.00)			(1.06)		
		59.7			50.6	
		(0.96)			(1.01)	
			65			50.0
R3正答率の全国比			(1.05)			(0.89)
			(1.00)			(0.87)

◎1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎「令和3年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【国語】

- ・記述式の無解答率や短い文であっても、分からない問題に解答しないという割合が高い。
- ・漢字の読みや敬語の種類など基本的な知識は習得しているが、文脈の中での意味判断や文章の前後を理解した上で答える問題に対する正答率が低い。特に、文学的文章で主語が明確でない動作が誰のものを判断するなどの行間を読むことを苦手とする傾向がある。情報をつなげ、判断する力や文章構成など全体を読むことに課題がある。

【数学】

- ・表やグラフからデータの傾向を読み取ったり、規則性の問題において論理的に類推したりすることができていない。また、自分の考えをもち、文字式を用いて説明することや、根拠を基に筋道を立てて論理的に説明することができていない。
- ・1年前や2年前の学習事項の知識の欠如が見られる。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

【国語】

- ・条件作文や文章のどの部分と問題が対応しているのかを考えさせる学習など情報をつなげる課題を設定し、取り組んでいく。
- ・文章を評価する観点を示し、情報を整理して説明させる学習にも取り組んでいきたい。
- ・言い換え表現や比喩表現を確認し、語彙学習の充実を図る。

【数学】

- ・学び直しの機会を意識的に設定して、既習事項の知識や技能の定着と理解の深化を図る。
- ・教材の研究と開発に努める。（協働学習ができないことを、いかに補うかを考える）

ア 生徒の興味を引きつける。

イ 教科書を読んだだけでは理解しにくい部分を、かみ砕いて説明したり、数学的活動を取り入れたりして具体的に考えさせ、納得させる。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

【国語】

- ・日頃の声かけでなぜそうなるのかを尋ね、自分で考えさせる習慣を育てる。
- ・高校入試に向けた面談練習で文章構成を考えるように声かけを行っていく。
- ・主語を明確にし、誰の動作かを考えさせる機会を少しでも増やしていく。

【数学】

- ・ワークブック以外に、定期的にプリントによる宿題を配布し、添削する。
(記述を伴う問題を適宜、取り入れるようにする。)
- ・放課後学習会が始まったので、復習や質問の時間として効率的に学習させる。
(指導者に任せきりではなく、時々様子を観察したり、励ましたりする。)

【教育活動全体】

- ・校内研究で進めている学習規律や学習環境、課題やめあての設定などについて共通理解、共通実践を図る。
- ・一人一台端末の利活用を通して、学びの個別最適化を図る。